



令和4年



月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

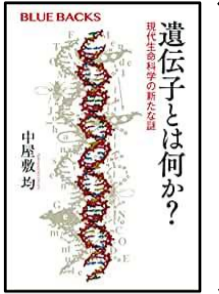
■塗りつぶしの日は休館です。



## 『遺伝子とは何か?』

中屋敷均/講談社/467.2 ナカ

研究が進み、詳細な情報が増えた結果、「遺伝子とは何か」が明確にわからなくなってしまった。そんな「混乱の現状」にたどり着くまでの歴史的経緯を振り返り、「遺伝子とは何か」を一から考える。遺伝子の仕組みがどのように解明されてきたかをわかりやすく教えてくれる一冊です。



## 『オッサンの壁』

佐藤千矢子/講談社/070.2 サ

なぜ、永田町と政治メディアにオッサンが多いのか？幾多の壁に直面してきた全国紙初の女性政治部長が、「日本一のオッサン村」永田町・政治メディアの実態を明かす。男性優位主義の本丸で考えた、日本社会への処方箋。



## 『後悔を活かす心理学』

上市秀雄/中央公論新社/141.5 ウエ

後悔を“成長のもと”に変えるには？「やらないで後悔するのとやって後悔するのとどちらがマシか」「後悔とうまく付き合うにはどうすればよいのか」など、効果的な意思決定と対処法を解説する。

## 『商店街さんぽ』

あさみん/学芸出版社/291 アサ

店先看板の手書き文字、カラフルなアーケード、路地奥に佇む地元の名店…。訪ね歩いた全国各地の商店街から選りすぐりの50を紹介。データ:2022年2月現在。

## 『電車は止まらない』

松本時代/芸術新聞社/292.5 マツ

僕たちは振り落とされないよう、身を寄せ合いながら、未来へと進む旅をしたのだ。高度経済成長期のご真ん中にあるバングラデシュで、「貧困層」と呼ばれる人々とともに、電車の屋根に乗って旅をした、1年半の記録。

## 『民法』

松川正毅/有斐閣/324.6 マツ

結婚・離婚、親子、扶養、相続問題…。家族法の基礎知識について、フランスの考え方との比較等にも触れ、判例理論をベースにわかりやすく解説する。所有者不明土地など、近時の法改正に対応した第7版。

## 『少年法がよくわかる本』

廣瀬健二/秀和システム/327.8 ヒロ

令和3年に大きく改正された少年法。少年法が果たす役割と意義、事件発生時の手続きの流れ、少年犯罪の最新動向など、少年法と少年犯罪の基礎知識や法改正を、図表とともにわかりやすく解説する。

## 『ひとめでわかるビジネスマナー』

堀江豊/成美堂出版/336.4 ホリ

身だしなみや言葉遣い、勤務態度、電話応対や来客応対など、社会人として求められる礼儀・マナーをイラストとともにわかりやすく紹介。ビジネス文書・メール、内外の行事、冠婚葬祭の基本も収録。

## 『東アジアの農村』

細谷昂/筑摩書房/361.7 ホリ

東北・東南アジアの農村の、文化や暮らしの違いはどこからくるのか？日本からインドネシアに至るまで、人間と大地の営み、農をめぐる統治と支配の歴史に深く分け入り、大陸の原風景を一望する。「日本の農村」の姉妹編。

## 『これからの住まい』

川崎直宏/岩波書店/365.3 カワ

人口減少・超成熟社会に見合った「住」とは？戦後直後から今日までの住宅事情と政策の変遷を読み解き、人口減少社会でさまざまな歪みを生じている現状を指摘。先進事例から、新しい時代に即した住まいのありようを展望する。

## 『一生使える国語力』

山口謠司/笠間書院/379.9 ヤマ

「国語力」は、学習に必要なだけでなく、生きる力ともなる。日本語の専門家が、小学校就学前・小学校低学年・中学年・高学年のそれぞれで、どのように国語力を育てていくかを具体的に説明する。

## 『となりのハト』

柴田佳秀/山と溪谷社/488.4 シハ

ハトはオスもミルクを出して子育てする、ハト胸の正体はものすごい筋肉、下を向いて水を飲むのはハトだけ、伝書鳩はエジプトのファラオも利用していた…。ハトに関する驚きの豆知識を多数紹介する。

## 『生きつづける民家』

中村琢巳/吉川弘文館/521.8 ナカ

庶民の住宅=民家は、いかにして今日まで受け継がれてきたのか。メンテナンスを繰り返し、部材がリサイクルされる民家の特性を解明し、間取りや構造、自然素材、伝統技術などからも、秘められた価値を見つめ直す。

## 『薬膳ナムル手帖』

植木もも子/家の光協会/596.3 ウエ

季節の野菜を使い、食材の性質を考えて調理法を選び、ほかの食材と組み合わせるだけ。ヘルシーでおいしい薬膳ナムルのレシピ105品を紹介します。ピピンパやチヂミといったアレンジメニューも掲載。



## 『小さな庭をつくる』

河野義雄/NHK出版/629.7 コウ

小さな庭、主に一坪花壇などをテーマに、植物選びから土づくり、植えつけ、日常の管理までを、初心者にもわかるよう解説。作業を月ごとに掲載するほか、おすすめの植物122種も厳選して紹介する。

## 『焚き火と道具』

猪野正哉/山と溪谷社/786 イノ

焚き火の記憶は、一緒に火を焚いた仲間や道具との思い出でもある。焚き火マイスターが、焚き火の名脇役たちを「基本」「火を充実させる」「仲間と火を囲む」などのテーマごとに紹介。焚き火お悩み相談も収録する。

## 『チェスを初めてやる人の本』

小島慎也/つちや書店/796.9 コシ

ボードゲームの王様・チェスを楽しく覚えましょう。これからチェスをはじめる人のために、基本のルールから、駒の動かし方、勝ち負けのルール、知っておきたいテクニックまでを解説します。

## 『英語の階級』

新井潤美/講談社/834 アラ

もうひとつの英語の世界によろこそ！「執事の英語」を入り口にして、アッパー・クラスやコックニーの英語から、アメリカ英語に英国人が抱く感情やBBCの英語まで、話し言葉と「階級」が織りなす複雑で奥深い文化を描出する。

## 『物語のあるところ』

吉田篤弘/筑摩書房/901.3 ヨシ

小説家の「ぼく」は、自分の描いた物語の中にある町「月舟町」におもむき、おなじみの登場人物たちと語り合う。主題は「物語とはなんだろう」。対話で深まる、ひと味違う物語論。

## 『すべてきみに宛てた手紙』

長田弘/筑摩書房/914.6 オサ 文庫

書くことは二人称をつくりだす試みです。どうしても大切にしたいものは何ですか？詩人が読者=「きみ」に宛てた、ことばの贈り物。世界を生き抜くヒントが見つかる39通のメッセージを収録。谷川俊太郎の解説付き。

## 『失われた TOKIO を求めて』

高橋源一郎/集英社インターナショナル/915.6 タカ

渋谷、新宿、御茶ノ水、新トキワ荘にジブリ美術館、そして皇居…。コロナ禍の2年間、作家が自分にとって特別な場所を歩き、若き頃のほろ苦い思い出と共に東京の知られざる姿を浮き彫りにする。『kotoba』連載を新書化。

## 『花散る里の病棟』

帯木蓬生/新潮社/F ハハ

大正時代、蛔虫退治で評判を取った初代。軍医の二代目。高齢者を見る三代目。そして肥満治療を手がける四代目である僕はコロナ禍で…。地方に生きる医師の家を通じて、近現代日本の医療現場を描く。『小説新潮』掲載を単行本化。

## 『マスクと黒板』

濱野京子/講談社/F ハマ 青少年

話すときはマスクをつけて、距離をとる。文化祭も運動会も中止らしい。味気ない学校生活を送るうち、中2の輝は級友たちとあるイベントをやることに…。日本中の学校が経験した「コロナの日々」からのささやかな抵抗の物語。

図書館のホームページで蔵書検索や本の予約ができます。また、登録された方にはメールで新着本をお知らせする「新着案内メール」を配信しています。

◆◆ホームページアドレス◆◆ <https://www.library.otsu.shiga.jp>



行事予定は裏面へ

